

厚生文教委員会視察報告書

視察日程：令和4年11月8日・9日

視察地：石川県 白山市、輪島市

厚生文教委員

委員長	大和屋 貴彦
副委員長	射手矢 真之
委員	布田 拓也
	中村 慎作
	野口 新一
	日根野谷 和人
	西野 辰也
	辻中 隆
	松村 正秀

令和4年11月8日(火)

視察先

石川県白山市 白山市役所

視察目的

全国学力・学習状況調査で上位の石川県の学力向上の取組を図書館の活用の観点も踏まえて調査すること

視察内容

「学校図書館支援センター、学校図書館の取組みについて」

「学力向上の取組みについて」

石川県白山市は、平成17年2月1日、1市2町5村（松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村）の合併により誕生した県内で最も広い754.93km²の面積、県内で2番目に多い112,995人の人口を有し、県南部に位置する自治体です。

白山市の教育の特徴については、次の通りです。(1)SDGs達成に向けた優れた取組を提案した自治体として平成30年6月1日に「SDGs未来都市」に選定されていることから、全小・中学校におけるSDGs推進事業を推進、(2)平成23年に日本ジオパークに認定されている白山手取川ジオパークについて理解を深める授業の推進、そして今回視察事項とさせていただいた(3)学校図書館教育の充実です。

まずは、白山市の学力向上の取組について報告いたします。(1)確かな学力を育む授業づくりの推進として、①付きたい力がつく授業をめざす、ねらいを明確にした授業づくり、②教科の特性を生かした一人一台端末を含むICTの効果的な活用、③授業の中盤から後半の充実を図るために各教科等の「見方・考え方」を働かせた思考場面の設定を行っています。

(2)授業の充実に向けた学校体制として校内研究・研究授業の充実を図るため、①学習のめあてをつかみ、考えを持たせ、交流し、深め、課題をまとめ、ふり返り、適用問題で定着を確認させるといった「オリジナル授業デザイン」を活用して焦点化、②具体的な研究授業計画と確実な実施、③学年会・教科部会の充実とシステムづくりを行っています。最後に、(3)県教育委員会の学力向上プランを導入し計画的な学力向上を図っています。

次に、学校図書館の取組について報告いたします。白山市には松任図書館をはじめ美川図書館、鶴来図書館、鶴来図書館本町分館、かわち図書館、移動図書館全てで 56 万 9,741 冊の蔵書冊数があり、学校図書館とは、図書館を使った「調べ学習コンクール」や「ビブリオバトル中学生大会」等の事業で連携を図っています。

さらなる連携体制として学校図書館支援センターを中心とする図書館ネットワークが構築されています。平成 14 年度に松任図書館移転新築の際に「学校図書館支援室」を設置し、平成 19・20 年度に文部科学省から「学校図書館支援センター推進事業」推進地域に指定され、平成 20 年度から図書の全小・中学校への配送が始まりました。

平成 21 年度に「学校図書館支援センター」として存続し、平成 22 年度に学校教育課から市立松任図書館の所属とし、平成 24 年度に会計年度任用職員 2 名を専任とする職員体制となりました。現在では、学校配送を年 44 回、市立図書館配送を週 3 回行いながら、図書館協力車による石川県立図書館学校図書館支援サービスも組み込まれています。

学校図書館支援センターの業務は、①学校からの貸出依頼受付、②レファレンス受付、③学校への貸出返却・配架、④学校配送、⑤絵本パック、⑥学習用資料の収集・提供、⑦学校図書館データ集約、⑧司書部会参加、⑨業務に関する質問・相談、⑩広報活動、⑪支援センター蔵書管理、⑫研修参加、⑬白山市図書館を使った調べ学習コンクール事務局補助、⑭学校展示、となっており、学校、学校図書館との緊密な連携体制を構築しています。

⑨司書部会参加とは、全 27 校に配置された学校図書館の運営の改善及び向上を図る学校司書と月 1 回の司書部会で情報交換、研修報告、グループ研究を行い、学校司書のスキルアップ体制を整備しながら、情報共有体制と信頼関係を構築することで学校支援を強化することを目的としています。

司書部会への支援センター職員の参加が、司書の方々とのコミュニケーションを促し、密なる情報共有を行える信頼関係の構築を実現し、学校図書館の支援に大いに貢献しています。

⑩広報活動は平成 23 年度からスタートした「支援センターだより」を教諭一人ひとりに配布し、図書館を活用した授業実践、読書の質向上のための工夫を凝らした取組紹介等、図書活用の事例を全体で共有し、さらなる利用促進を図っています。

その結果、学校図書館への貸出と配送利用実績が次の通りとなっています。学校図書館貸出冊数が令和元年度 15,048 冊、令和 2 年度 15,491 冊、令和 3 年度 16,673 冊、配送利用冊数が令和元年度 38,249 冊、令和 2 年度 40,086 冊、令和 3 年度 39,232 冊となっています。

さらに、学校図書館の年間一人当たりの貸出冊数は、学校図書館支援センター設置前の平成 17 年度で小学生 42.7 冊、中学生 14.5 冊、設置後の平成 21 年度で小学生 72.5 冊、中学生 21.6 冊、最近の令和 3 年度で小学生 134.0 冊、中学生 39.0 冊と、大幅に増加している状況です。

令和4年11月9日（水）

視察先

石川県輪島市 輪島市役所

輪島 KABULET（カブーレ）拠点施設

カフェカブーレ・ゴッチャ!ウェルネス輪島・ゲストハウス うめのや

視察目的

超高齢社会に対応できる地域包括ケアシステムの土台となるであろう日本版 CCRC（Continuing Care Retirement Community）で空き家や空き地等の社会課題にも対応しながら、子どもから高齢者、障がいや疾病の有無に関わらず全ての人々が共生できる先行7モデルの一つとして内閣府まち・ひと・しごと創生本部が全国に先駆けて採択した生涯活躍のまちづくりの事例を調査すること

視察内容

「生涯活躍のまちづくり（輪島 KABULET）について」

石川県輪島市は、426.32 km²の面積、24,020人の人口を有し、能登半島の北西に位置する自治体です。

(1)取組の背景

今回視察させていただいた「輪島市版生涯活躍のまちプロジェクト」が始動した背景には、人口減少問題を含む少子高齢化、過疎化、空き家の増加といった地方が抱える共通課題があります。

例えば、令和4年4月1日時点の高齢化率が市全体で46.85%、輪島地区で42.65%、門前地区で63.48%、平成30年度時点の空き家率が23.5%と、非常に高い状況となっております。空き家に加えて空き地の増加は平成19年の能登半島地震以降の急激な増加に伴い、都市機能の衰退、基幹産業である漆器業、観光関連産業、農林水産業の低迷など様々な課題が複合的に生じている状況です。

輪島市は、それらの社会課題を一挙に解決すべく、平成27年度に地方創生総合戦略を策定するにあたり、移住者増につながるようなまちづくりを展開する為、当時、社会福祉法人 佛子園が日本版 CCRC の先駆的なモデルとして展開していた金沢市にある「シェア金沢」や白山市にある「行善寺」を視察しました。

それをきっかけに、生涯活躍のまちづくりについてノウハウを有する同法人からの提案を受け、青年海外協力協会（JOCA）との協働の下、市街地中心部に点在する空き家や空き地を活用し、子どもから高齢者、障害者、国籍等にかかわらず様々な人達が

“ごちゃまぜ”に関わるための多世代交流施設や福祉施設等の機能をまちの中に点在させる「タウン型の生涯活躍のまち」をコンセプトにプロジェクトを展開し始めました。

具体的には、市街地の空き家や空き地を活用し、温浴やレストラン、高齢者デイ生活介護、児童発達支援、相談支援と管理事務所としての機能を有する多世代交流拠点施設や健康増進を目的としたジムとしての機能を有する「ゴッチャ!ウェルネス輪島」、ママカフェやボディケアを行う子育て支援施設「カフェカブーレ」、「ゲストハウス うめのや」、サービス付き高齢者向け住宅、短期入所施設、グループホーム等を配置・展開しています。

(2)プロジェクト推進体制

プロジェクト推進体制は、輪島市と「輪島カブーレ」がそれぞれの役割を担う形となっており、推進に当たっては社会福祉法人 佛子園、青年海外協力協会（JOCA）、輪島市の関係部局が連携して定例会議を開催するなど、随時進捗状況や課題などの情報を共有して取り組んでいます。

輪島市は、地方創生総合戦略において移住定住促進のための重点施策として本プロジェクトを推進する為に、空き家データベースの充実等による移住者の受入体制の整備、移住定住奨励金の交付による移住定住の促進に取り組んでいます。

日常的に漆が溢れる街づくりで繋がる“かぶれ人”やイキイキした街の姿が“KABULET=カブーレ”と呼ばれており、生涯活躍のまちの実現に向けて平成27年12月に輪島市に移住した青年海外協力隊経験者のJOCA隊員が「輪島カブーレ隊員」として、関係施設の整備、空き家や空き地の取得について前面に立って声かけを実施したり、住民説明会の開催や前述の「シェア金沢」などの視察ツアー等を通して、地域の理解促進に取り組んでいます。

(3)プロジェクト実施による効果

①空き家や空き地が多く、人通りも少なかったが、整備後、周辺地域の街並みの雰囲気も明るくなり、賑わいも出てきた。

②拠点施設の近隣住民については温泉等の利用料を無料にすることで、地域の高齢者や親子連れの「拠り所」となっている。温泉入口に設置された「入湯札」には近隣の方々のお名前が記されており、入湯したらひっくり返すルールとなっている。それを

データ化し、しばらく訪れていない方々のことを、来られた方々から情報収集し、独居老人を見守る効果もある。

③健康増進のための「ウェルネス」や親子で料理を楽しめる「ママカフェ」などを整備したことで、多世代の人達が、気軽に集い、交流できる場となっている。

④近隣のまんなか商店街と輪島カブーレが連携協働し、商店街の活性化に向けたイベント等を開催している。

⑤移住者

本プロジェクト関連として、JOCA 隊員や社会福祉法人 佛子園職員と家族など 13 名が移住。

サービス付き高齢者住宅への市外から 4 名入居。

※令和 4 年 4 月 1 日時点

⑥雇用

正社員・パートを含め地元で 76 名の雇用創出。

障がい者の働く場として、「就労継続支援 A 型」の取組がスタートし、拠点施設や配食サービス関係、市役所売店などで 41 名の雇用創出。

※令和 4 年 4 月 1 日時点

⑦交流（関係）人口

生涯活躍のまちに取り組む全国の自治体や事業者の方など多くの視察者などが訪れるなど、交流（関係）人口の拡大に寄与。

・「生涯活躍のまち」に関する取組の意向がある地方自治体、議会、事業主となる関係諸団体 245 団体

・推進意向がある地方公共団体のうち、既に取り組を開始している団体 114 団体

※平成 29 年 10 月 1 日時点

(4)取組を進めるにあたって活用した支援制度

①国の交付金制度

・青年海外協力協会（カブーレ隊員）の活動費や温泉掘削関連
地方創生先行型交付金 タイプ I

地方創生加速化交付金

・空き家や空き地を活用した施設整備（拠点施設・ウェルネス・ママカフェ等）
社会資本整備総合交付金（都市再構築戦略事業・空き家再生等推進事業）

②市の補助制度

- ・簡易宿泊施設「うめのや」改修等
輪島市宿泊施設魅力アップ事業補助金

③交付金・補助金総額 約3億円（国 約1.8億円／市 約1.2億円）

※事業総額 約10億円

(5)今後の展開

プロジェクト導入当初の「生涯活躍のまち」の目的は、「首都圏をはじめとする地域の中高年齢者が希望に応じ、地方に移り住んでもらう」という中高年齢者の住み替え・移住と活躍を中心とした施策として位置付けられていました。

しかし、成功事例といわれている各地の「生涯活躍のまち」の取り組みや類似の取組においては、多様な世代や人々がつながりを持ち、その中で役割を持って、生き生きと暮らしている地域コミュニティづくりを進めることにより、まちの魅力が向上し、結果として中高年齢者のみならず若者や子育て世代をはじめとした「ひと」を呼び込み、地域が活性化していることが、各種検討会等で報告されました。

そこで、現在では新たなコンセプトとして、従前の概念を包含する「誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり」を推進する施策として位置付けが見直され、全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」をめざした取組が展開されています。